

(様式1)

令和4年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立伊佐見小学校運営協議会長

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- 伊佐見小学校の学校目標、目指す子供像の理解については、学校からの説明を受け、学校の現状と課題、教育目標とその具現化についての成果や課題について理解することができた。また、委員同士の話し合い・聞き合うことを通して伊佐見小学校の教育活動についての理解を深めたり、ボランティア活動に対する考えを深めたりすることができた。
- 委員同士、素直に子供たちのことを第一に考えた意見交換ができていると思う。学校の教育目標や目指す子供像など子供たちの成長につながるよう心掛け、協議に臨むことができている。限られた時間では全委員の考えを理解するには無理があるが、議長の会議運営などにより相互理解が進められた。本年度から議長を各委員が持ち回りで務めることとなり、一層新鮮さのある協議会になった。
- 委員の中でも世代の違いで考え方が異なるため、共通理解することが重要だと思われる。参加した委員全員が発言する機会をもち、さらに信頼関係を深めていきたい。

＜評価項目2＞ 学校運営に資する活動について熟議を進めることができたか。

- 本年度、災害時の避難経路や避難場所、避難方法などを熟議した。特に地域の実情に詳しい委員によって、より具体的に分かりやすくすることができた。また、6年生の総合的な学習の活動として行った職業講座は、保護者（地域）との連携がうまくできた事例だと思う。身近な方に職業、はたらくということを話してもらえたことは、とても有意義だったと思う。
- 様々なボランティア活動や学習活動（伊佐地川学習・職業講座など）では、委員のみならず、地域の中でいろいろな方を学校に紹介できる機会を提供できたと思う。地域の方々も、子供たちから元気をもらっており、互いに支え合う関係、地域づくりになってきていると思われる。
- 地域・保護者等の参加を得るには、その人材を必要とする活動を具体的に示すことが重要であると感じた。今後も、人材ありきの活動ではなく、「子供たちの成長のために必要な活動」を優先して人材を確保していきたい。例えば、近年、核家族化が進み、祖父母世代の方々との交流が少なくなっている状況から、自治会の方たちに現役の時の仕事の話や、地元の昔の風景（伊左地や佐浜等）や自然の話などを聞かせてあげる活動なども考えられる。
- 学校運営に資する活動については、活動後の総括を行ったり、今後の方向性などについても検討したりしていく必要がある。

＜評価項目３＞ 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- 活動も２年目になり、委員同士の信頼感が増し、熟議が活発になり、より理解を深めることができた。この調子で３年目も理解を深め合っていきたい。
- ボランティア活動については、第３回学校運営協議会において示された「ＣＳボランティアに参加された方々の声」を読み、子供たちだけでなく、参加された方々にとっても大変意味のある活動であることがうかがわれた。来年度は、この活動をより広めるためにはどうすれば良いかを検討し、実現につなげていきたい。
- 協議会の際に行われる授業参観や学校行事の参観から、子供たち、教職員の姿、活力は伝わってくる。しかし、保護者の考えは十分に聞き取れていない。保護者の声を聞き、その中から、少しでもできることを考えていきたい。
- 伊佐見小学校の教育環境の現状を把握するには、委員の踏み込みは必要な事は言うまでもないが、学校側からも課題や要望等を遠慮せず示してもらうことが必要だと思われる。取組の説明から発展させ、課題解決や提案につなげていきたい。ワークショップによる課題に対するアイデア誘発なども取り入れつつ、熟議を行っていきたい。